

令和6年度
建設業社会貢献活動推進月間

～ 功労者表彰受賞者名簿・受賞事例概要 ～

令和6年7月26日
一般社団法人 全国建設業協会

令和6年度 建設業社会貢献活動推進月間 受賞者名簿・受賞事例概要

【目次】

1. 建設業の社会貢献活動と中央行事について	1
2. 受賞者名簿	3
社会貢献・SDGs功労者表彰.....	3
広報功労者表彰.....	5
3. 受賞事例概要	6
社会貢献・SDGs事例【第3条(協会・支部)】.....	6
社会貢献・SDGs事例【第4条(会員企業)】.....	11
広報事例【第3条(協会・支部)】.....	17
広報事例【第4条(会員企業)】.....	18

1. 建設業社会貢献活動と中央行事について

「企業の社会的責任」(CSR)は、企業活動のプロセスに経済性や法令遵守にとどまらず、環境への配慮や社会的倫理性などを組み込み、様々なステークホルダー(利害関係者)に対する説明責任を果たすことにより、社会から信頼を受け、事業を継続的に発展させる活動ですが、近年、この CSR が企業評価の重要な要素となっています。

建設産業は、社会資本の整備を通じ、「国土の保全」、「地域の安全・防災」、「利便性の高い暮らし」等を実現し、社会に貢献してきました。本会傘下の各建設業協会並びに会員企業は、地域の基幹産業である建設業の社会的責任と使命を強く認識し、地域経済の活性化、雇用の確保に貢献するのみならず、国・地方自治体との災害協定に基づき、災害発生時には、住民の安全・安心を確保するため、不眠不休で応急復旧活動に取り組んでいます。しかしながら、このような地域建設業の取り組みは、マスコミ等において正しく報道される機会が少なく、建設業界も積極的な PR 活動を行ってこなかったため、国民・社会にあまり知られていない状況にありました。

このため、本会では、平成 18 年度より毎年 7 月を「建設業社会貢献活動推進月間」と定め、月間期間中の活動の一環として、各都道府県建設業協会並びに会員企業と連携し、地域建設業界の実践している幅広い社会貢献活動及び広報活動を国民・社会に広くアピールするため、毎年中央行事を開催しております。中央行事では各地域で実践された様々な社会貢献活動と、建設業のイメージアップ広報活動について各都道府県建設業協会を通じて広く収集し、優れた活動事例については、全建表彰規程に基づき表彰部会での厳正な審査・選考を経て、功労者表彰として顕彰を行っております。

この度、令和 6 年度の中央行事の開催にあたり、各都道府県建設業協会から様々な社会貢献・SDGs 活動、広報活動をご推薦いただき、表彰部会において厳正な審査を行った結果、都道府県建設業協会・支部等を対象とした社会貢献・SDGs 活動を第 3 条関係で 21 事例、会員企業を対象とした第 4 条関係で 20 事例、広報活動は第 3 条関係で 4 事例、第 4 条関係で 7 事例、計 52 事例の受賞が決定しました。

(1) 表彰事例について

◆ 本会会員(各都道府県建設業協会)に対する表彰規程

全建表彰規程第 3 条 1 号「積極的に社会貢献活動等に努め、他の団体の模範となる会員」に基づき表彰

◆ 地方協会の会員(会社又は個人の営業所)の社会貢献活動等に対する表彰規程

全建表彰規程第 4 条 5 号「積極的に社会貢献活動等に努め、その功績が顕著な会員」に基づき表彰

◆ 活動の期間等

令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月末日の期間に実施した、優れた社会貢献・SDGs 活動、広報活動。原則 3 年以上継続かつ主体的な活動。

◆受賞される社会貢献活動等の内容

(i)社会貢献・SDGs 功労者表彰

①災害復旧・防疫活動

自然災害(地震、台風、豪雨、豪雪等)における応急復旧活動、土砂・流木処理・除雪対応、救助活動、防疫活動等

②防災支援活動

自治体等との防災訓練の実施・協力、各種パトロール活動、消防団活動等

③地域活性化への取組

まちづくりや地域イベントへの協力、建設企業活動等を通じて快適な地域生活の創出や雇用の確保等地域活性化に向けた活動等

④環境美化・保全活動

河川・道路等の清掃活動、森林・公園等の環境美化・保全活動、植樹・植栽、ビオトープ等

⑤社会福祉活動

献血活動、社会福祉施設等への協力活動、子供 110 番、地域パトロール等の防犯活動等

⑥SDGs への取組

SDGs 宣言等を行い、SDGs 達成に資する優れた取組等

⑦その他

その他社会の発展・継続に資する活動

(ii)広報功労者表彰

①建設業ふれあい活動

親子現場見学会の開催、建設機械試乗体験、児童を対象とした工作・木工・絵画教室等の実施、建設フェアの開催等

②SNS、映像、メディアによる広報活動

SNS を活用した広報活動、テレビ番組・ラジオ番組への出演等

③広報ツール、アイテムの活用による広報活動

キャッチコピー、オリジナルキャラクターの設定、配布物などによる広報活動

④商業広告による広報活動

テレビ・ラジオ CM の作成、電車やバス、駅などへのポスター掲示、その他広告の出展等

2. 令和6年度社会貢献活動推進月間功労者表彰受賞者

◆ 社会貢献・SDGs功労者表彰

[規程第3条関係] (21協会・支部)

(災害復旧・防疫活動)

◇ 災害復旧活動

山梨	一般社団法人 峡北地区建設業協会
新潟	一般社団法人 新潟県建設業協会
富山	一般社団法人 富山県建設業協会
石川	一般社団法人 石川県建設業協会
京都	京都府建設業協会 綾部支部
奈良	一般社団法人 吉野建設業協会

◇ 防疫活動

茨城	一般社団法人 茨城県建設業協会 水戸支部
群馬	一般社団法人 群馬県建設業協会 吾妻支部
埼玉	一般社団法人 埼玉県建設業協会 飯能支部
佐賀	一般社団法人 藤津建設業協会

◇ 災害復旧・防疫活動

佐賀	一般社団法人 唐津建設業協会
----	----------------

(防災支援活動)

千葉	一般社団法人 千葉県建設業協会
山梨	一般社団法人 市川建設業協会

(地域活性化への取組)

山形	山形県建設業協会 米沢支部青年部
----	------------------

(環境美化・保全活動)

青森	一般社団法人 青森県建設業協会 中弘支部
長野	長野県建設業協会 飯山支部

(社会福祉活動)

埼 玉	一般社団法人 埼玉県建設業協会 さいたま支部ほか10支部
山 梨	一般社団法人 身延建設業協会
山 梨	一般社団法人 富士・東部建設業協会 青年部会
山 口	山口県建設業協会 長門支部

(その他)

◇防災意識の啓発

神 奈 川	一般社団法人 神奈川県建設業協会 小田原支部
-------	------------------------

[規程第4条関係] (20社)

(災害復旧・防疫活動)

◇災害復旧活動

岐 阜	井戸建設 株式会社
岐 阜	有限会社 林土木

(防災支援活動)

京 都	株式会社 巖建設
-----	----------

(地域活性化への取組)

富 山	株式会社 深松組 北陸支店
兵 庫	株式会社 河合塗研

(環境美化・保全活動)

北 海 道	丸彦渡辺建設 株式会社
北 海 道	株式会社 櫻井千田
岩 手	有限会社 新江建設
宮 城	日広建設 株式会社
山 梨	株式会社 桑原組
岐 阜	青協建設 株式会社
富 山	近藤建設 株式会社
富 山	株式会社 関口組

(社会福祉活動)

北海道	北土建設 株式会社
福島	みほた建設 株式会社
山梨	昭和建設 株式会社
愛知	株式会社 加藤建設

(SDGsへの取組)

埼玉	古郡建設 株式会社
福島	石橋建設工業 株式会社
鹿児島	株式会社 グリーンテック

◆広報功労者表彰

[規程第3条関係] (4協会・支部)

(建設業ふれあい活動)

岐阜	一般社団法人 郡上建設業協会 青年会
----	--------------------

(SNS、映像、メディアによる広報活動)

山形	山形県建設業協会 最上支部
----	---------------

(広報ツール、アイテムの活用による広報活動)

新潟	一般社団法人 新潟県建設業協会 十日町支部
岡山	岡山県建設業協会 岡山西支部

[規程第4条関係] (7社)

(建設業ふれあい活動)

北海道	株式会社 西村組
福島	株式会社 小野中村
山梨	金山土建 株式会社
長野	高木建設 株式会社
富山	株式会社 斉藤組
山口	住吉工業 株式会社

(SNS、映像、メディアによる広報活動)

愛知	ヤマダイインフラテクノス 株式会社
----	-------------------

3. 受賞事例概要

◆社会貢献・SDGs事例概要【第3条(協会・支部)】

令和5年7月の豪雨における災害復旧活動

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

一般社団法人 峡北地区建設業協会(山梨)

令和5年7月20日、山梨県北中市大泉町の集中豪雨により、県道で災害復旧工事請負会社の現場事務所1棟転倒・車両2台が土砂に巻き込まれ土砂崩落・橋台の護岸損傷(人員無事)が発生した。

峡北地区建設業協会は、翌日山梨県からの要請により、会員数社による土砂・流木等の撤去・搬出、大型土のうの設置を全面通行止めで実施し8月上旬に全面開通となった。



令和6年能登半島地震における災害復旧支援活動

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

一般社団法人 新潟県建設業協会(新潟)

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震に、北陸地方整備局との災害協定に基づき、1月1日に災害対策車両の派遣、1月9日に道路啓開の支援要請があった。

また、1月2日から断水被災地に給水車、夜間緊急工事に照明車を派遣した。

道路啓開支援は1月11日から2月6日まで、能登地域の孤立集落解消のため、車の往来が安全にできるよう道路差の解消、2月13日から土砂等除去する緊急復旧支援を行っている。

新潟県建設業協会からの道路啓開支援では、必要となる資機材はすべて自前で持ち込み、宿泊も車中泊などで、仮設工事用トイレも持参している。



令和6年能登半島地震における災害復旧支援活動

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

一般社団法人 富山県建設業協会(富山)

富山県建設業協会は、令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震に、北陸地整から発災以降数度にわたり災害協定に基づく自主パトロール(道路、海岸等)や、災害対策用機械の派遣、及び道路啓開作業支援のため会員の出動の要請があり、給水、排水、照明(電源供給)の支援、道路啓開作業の支援活動を実施した。



令和6年能登半島地震における災害復旧支援活動

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

一般社団法人 石川県建設業協会(石川)

石川県建設業協会は令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震における災害復旧支援活動として、道路啓開、河川堤防補強や碎石運搬、物資輸送等多岐にわたり地域の安全安心を守る建設業の団体として活動した。

発災翌日1月2日に「能登半島地震災害対策本部」を設置し、県内9地区協会と連携、復旧活動を即日開始した。各地区協会のうち、被害の大きい能登地域の鳳輪、珠洲、七尾鹿島、羽咋都市の4地区建設業協会は、管内での復旧活動に取り組んでいることに加えて、比較的被害が少ない金沢、白山野々市、小松能美、加賀の4地区建設業協会の会員企業を中心に道路啓開、河川堤防補強、碎石運搬、物資輸送等の復旧支援活動に取り組んだ。



令和5年8月台風第7号による発生した豪雨における 災害復旧支援活動

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

京都府建設業協会 綾部支部(京都)

令和5年8月14日からの台風第7号による集中豪雨により綾部市においても、家屋の浸水被害や山腹崩壊が発生し土砂等の流出により家屋が倒壊するなど、甚大な被害が発生した。

京都府建設業協会綾部支部では、災害応援協定に基づき、綾部市から緊急要請を受けて、行政機関と連携し各会員企業が迅速かつ的確に緊急復旧作業を実施したことにより、二次災害への防止と住民の安心・安全が確保できた。

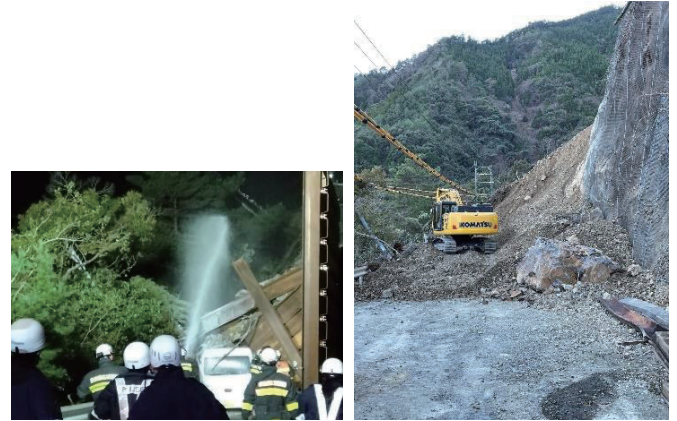


令和5年12月に国道169号で発生した 土砂崩れにおける災害復旧活動

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

一般社団法人 吉野建設業協会(奈良)

令和5年12月23日夜、奈良県吉野郡下北山村で発生した土砂崩れは国道169号を走行中の車2台を飲み込み、1名が死亡した。奈良県吉野土木事務所から復旧対応の要請を受けて、一般社団法人吉野建設業協会が迅速対応をした。



鳥インフルエンザ防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人 茨城県建設業協会 水戸支部(茨城)

令和5年11月27日、笠間市の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザの感染が確認された。

茨城県との「特定家畜伝染病発生時の防疫業務に関する協定」に基づき、水戸支部土木委員会6社、延べ31名の作業員を防疫支援活動のため現地に派遣し、処分鶏の埋却処理作業、鶏糞および飼料等汚染物品の埋却処理、農場内の消毒作業を実施し、11月27日～12月3日までの7日間に、7万羽の殺処分を完了させた。



鳥インフルエンザ防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人 群馬県建設業協会 吾妻支部(群馬)

令和5年12月31日、群馬県高山村内の養鶏所から群馬県に鳥インフルエンザの疑いの通報があり、県と国による検査を経て1月1日に陽性が確定。群馬県建設業協会と県は「特定家畜伝染病発生時の防疫業務に関する基本協定」等の協定を締結しており、協力依頼の連絡を受け作業を開始した。

吾妻支部では、群馬県との協定に基づき、会員企業は年末年始休業返上で懸命に防疫作業(24時間3交代)に従事した。

当日から殺処分、埋却場所での仮囲いと掘削を開始し、従事企業累計15社、作業員延べ130名を動員。1月12日に作業を完了した。



一般社団法人 埼玉県建設業協会 飯能支部(埼玉)

令和5年11月30日に、埼玉県毛呂山町では高病原性鳥インフルエンザが発生し、埼玉県と埼玉県建設業協会が締結している「口蹄疫等家畜伝染病発生時における緊急対策に関する基本協定書」に基づき、埼玉県より飯能支部に対して防疫措置の要請があった。

飯能支部は、県からの要請に即座に対応し、高度な警戒を伴う中で、影響をできる限り封じ込める防疫措置に貢献した。

豪雨災害における応急復旧活動及び
CSF(豚熱)防疫活動

災害復旧・防疫活動【災害復旧・防疫活動】

一般社団法人 唐津建設業協会(佐賀)

令和5年7月に九州北部で線状降水帯が発生し、各地で大きな被害が発生した。

佐賀県内では、土砂災害や冠水被害が発生。その中でも唐津市の浜玉地区では集落で大規模な土石流が発生し、3名の尊い命が失われた。

唐津建設業協会では6月末から断続的に大雨が降っていたこともあり、災害協定に基づき継続的にパトロールなどを実施していたが、線状降水帯の発生で短期間に大量の雨が降ったことで、管内各所で被害が発生し応急対応を行った。

さらに、8月30日には、九州で初となる豚熱が唐津市で2例続けて発生した。

1例目は30日未明から埋却場所の確認等の準備作業を進め、夜から殺処分と掘削作業を開始していた時に、2例目の発生報告があり、こちらが約1万頭と県内でも最大規模の農場であった。

唐津建設業協会としても1例目の埋却作業と2例目の埋却地の掘削作業を並行して行いつつ、人員配置や作業体制の確立を行った。

通常、佐賀県協会の防疫活動では、埋却を発生支部、消毒ポイントを他支部が応援するという形で対応していたが、今回は頭数が多すぎて単一支部が総動員しても人員が足りないため、初めて、埋却作業にも他支部からの応援を派遣した。埋却作業・農場の消毒等の防疫作業が終了したのは9月20日。消毒ポイントの閉鎖は10月19日であった。

発生から実に51日間にわたる長い防疫活動となった。

一般社団法人 藤津建設業協会(佐賀)

令和5年11月に佐賀県鹿島市において高病原性鳥インフルエンザ(今シーズン国内1例目)が発生。今までの発生時には全て埋却処分を行っていたが、今回発生した農場が事前に設定していた埋却地では有明海干拓地のため1メートルほど掘削すると海水が出るため、埋却での処分を断念。急遽、初めての焼却処分が選択された。

焼却処分となったものの、当初鹿島港付近に国の移動式焼却炉を設置して作業をする予定であったが、市街地に近いことや、有明海特産のノリ漁期に重なるため、港での焼却も断念。またしても急遽、鹿島市外の産業廃棄物処理施設まで搬送して作業することとなった。

藤津建設業協会は発生当初から関係機関等と連携しつつ、埋却予定地の現地確認や試掘、消毒ポイントの設置などを行った。焼却処分へと変更されてからは消毒ポイントの運営と並行して、殺処分に使用した防護服等の埋却作業も実施した。

今回の処分数は、成鳥約38,000羽、卵約120,000個、密閉容器約5,300個を使用した。また、建設業協会の人員は延べ約200名であった。

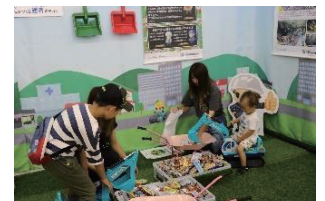
実動訓練・防災フェアへの参加で防災の取組をPR

防災支援活動

一般社団法人 千葉県建設業協会(千葉)

千葉県建設業協会は、令和5年9月に千葉県我孫子市で開催された、九都県市合同防災訓練に防災機関の一つとして参加した。九都県市合同防災訓練は、大規模被害が懸念される「東海地震」や「首都直下地震」等の大地震発生時、各行政機関や各防災機関が救出救助や避難所運営など実践的な訓練を実施するものであり、協会は令和元年・4年(令和2,3年は新型コロナウイルスの影響で規模縮小のため参加せず)と継続的に参加している。訓練では、道路啓開作業を担当し、支部会員が、県から要請を受け、道路を塞いでいる瓦礫等を重機で撤去し、救助車両及び孤立地域などへの進入経路確保を想定し、道路管理者と連携しスムーズに実施できた。

また、会場内では防災フェアが実施され、啓発コーナー内で、地域建設業が地域の防災・減災活動に貢献していることについて、子供や保護者に理解してもらおう一助となる催しとして、主に子供を対象とした、ミニ建機操作体験、防災用品の配布及び協会のパネルを使用した活動紹介を行った。



防災支援活動

一般社団法人 市川建設業協会(山梨)

市川建設業協会は、地震・風水害などにより人命が危機にさらされた場合に、救出支援を行うための協定「災害時支援協力に関する協定」を、鮎沢警察署・峡南消防本部・市川三郷町・富士川町と令和2年に締結した。

締結以降、関係機関との連携の強化を目的に、毎年合同訓練を行っている。



土淵川草刈りボランティア

環境美化・保全活動

一般社団法人 青森県建設業協会 中弘支部(青森)

「土淵川草刈りボランティア」は中南地域県民局地域整備部、青森県建設業協会中弘支部及び青年部会が合同で平成21年度より毎年実施(令和元年度はコロナ禍で中止)しており、令和5年度で14回目を迎えた。

土淵川は弘前市の中心地域にあり、遊歩道なども整備されていることから、地域住民をはじめ観光客の方々にも親しみのある川である。しかし、夏季になると遊歩道も見えないほどの高さの雑草が生い茂り景観を損ねてしまい、また、近隣には小中学校もあり、防犯にも支障をきたしてしまう。こうした状況を解消するため、土淵川の景観保全及び近隣学校の子供たちの安全を守ることを目的に草刈りボランティアを実施している。



弘前
土淵川沿いで
草刈りに汗
流した。
活動は景観形成・防犯を
目的に、新型コロナウイルス
の影響で中止した202
0年を除き、09年から毎年
行っている。

参加者ら
は、草を刈
き、川を
きれいにし
てあげた。
また、近
隣の小中
学校の子
供たちの
安全を守
ることに
貢献した。
参加者は
、市街地
の景観を
保ち、遊
歩道を見
えやすく
した。

参加者
は、草を
刈き、川
をきれい
にしてあ
げ、また
、近隣の
小中学校
の子供た
ちの安全
を守るこ
とに貢献
した。

地域活性化への取組

山形県建設業協会 米沢支部 青年部(山形)

山形県建設業協会米沢支部青年部は、山形県東南置賜地域の建設業に従事する独身技術者が、将来にわたって支えあえるパートナーと巡り会える場を創出し、安定した社会生活を送ることによって魅力ある産業の発展をめざし、さらには地域の重要課題である人口減少化社会の解決の糸口になる事で社会に貢献することを目的として、『逢con Party』と銘打って婚活事業を実施した。

当時、全国でも建設業に特化した婚活パーティは稀で、東北では初の試みだった。平成29年に青年部に実行委員会を立ち上げ、会議を重ねて企画を練り上げた。

平成29年度から令和元年末までパーティ形式で3回実施。成婚まで至るカップルもあった。令和2~4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3年間事業の実施を見送っていた間に婚活アプリを活用したものがトレンドとなっており、令和5年は結婚相談所への入会説明会を実施。広く建設業に携わる方を対象とし、情報提供の場を設定した。

結婚に向けてのきっかけづくりはとて重要なので、建設業界のみならず地域社会全体の発展に貢献できるよう今後も継続して実施していきたい。



観光地へのアクセス道路の沿道美化活動

環境美化・保全活動

長野県建設業協会 飯山支部(長野)

平成27年より長野県建設業協会飯山支部と長野県北信建設事務所との協働で、道路愛護活動の一環として、春と秋の年2回北信地域を訪れる観光客を温かく迎えるために観光地へのアクセス道路を中心に沿道美化活動を実施している。

平成29年からは支部会員も加入している飯建除雪協議会のメンバーも加わり今年度で10年目を迎える。

令和5年度秋の活動では可燃ごみ90kg、不燃ごみ30kgを分別焼却した。



継続的な献血活動

社会福祉活動

一般社団法人 埼玉県建設業協会 さいたま支部ほか10支部(埼玉)

埼玉県建設業協会では、埼玉県赤十字血液センターからの協力依頼に応じて、令和3年度から各支部主催による献血活動を実施している。

さいたま支部ほか10支部では、令和3年度から令和5年度までに、28会場において、総勢約 2,000 名の皆様から御協力いただき、献血活動を実施した。

埼玉県赤十字献血センターによると、コロナ禍においてのイベントの中止や延期、企業の在宅勤務など、予定していた献血の実施が出来ず、血液在庫量の安定的な維持が困難な状況が続いており、このような状況の中、感染対策を講じた上で、各支部ともに目標献血量の達成に努めました。



継続的な献血活動

社会福祉活動

一般社団法人 身延建設業協会(山梨)

地域の社会貢献活動の一環として献血を実施。

身延建設業協会が、山梨県赤十字血液センターの協力を得て、献血バスを出張してもらい地域の社会貢献活動の一環として継続的に献血活動を実施している。

会員企業の社員だけでなく、一般の方にも参加してもらえるよう身延町の広報等、広く周知を行い、実施日は、執行部が会場設営や駐車場の整理を行い、運営を行った。

なお、令和5年10月30日に、山梨県赤十字血液センター所長より感謝状が手渡された。



児童養護施設の整備活動

社会福祉活動

一般社団法人 富士・東部建設業協会 青年部会(山梨)

富士・東部建設業協会 青年部会は、「児童養護施設 くずはの森」のグラウンド及び建物外構、周辺の美化整備ボランティア活動を実施している。この活動は2009年(平成21年)より毎年継続しており令和5年で14年目となる。

グラウンドの整地、小石・雑草除去、高木・樹木の伐採・剪定、敷地内の雑草刈り、落葉の撤去、隣地河川敷の雑草刈り、外周フェンスの雑草撤去を行い、過去にはグラウンドの土の補充、グラウンドの排水を円滑にするための土削り、不要となった遊具の廃棄処理を行った。



継続的な献血活動

社会福祉活動

山口県建設業協会 長門支部(山口)

山口県建設業協会長門支部では、令和2年度に新型コロナウイルス感染拡大で血液の量が足りなくなっている状況を鑑み、地域貢献、社会貢献への一環として、献血活動を実施した。

令和3年度以降も、依然として献血が不足していることから、献血活動は継続して実施しており、これまでの実績としては、4年間で合計174人が協力している。



一般社団法人 神奈川県建設業協会 小田原支部(神奈川)

神奈川県西部地域は 100 年前に起きた関東大震災の震源地であり、大きな被害を被った。その後、地域の人々の懸命な努力により復旧や復興が行われ、今日に至っている。

神奈川県建設業協会小田原支部は、地元自治体や商工会議所などと震災 100 年事業として実行委員会を立ち上げ、パネル展や記念碑の設置を行った。

当時災害の復興に当会会員が携わっていたことを伝承し、建設業の果たしてきた役割や防災力の向上などを多くの市民に伝え、建設業のイメージアップを広く PR することができた。



◆社会貢献・SGDs事例概要【第 4 条(会員企業)】

豪雨災害における応急復旧活動

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

井戸建設 株式会社(岐阜)

令和 5 年 6 月の岐阜県多治見市内の集中豪雨により笠原川の護岸河床部が洗堀され、護岸が一部崩壊し、堤防道路まで影響を及ぼした。岐阜県多治見土木事務所との災害協定により要請を受け、多治見建設業協会の井戸建設は、災害拡大を防止する為、袋詰め玉石、大型土のう積にて応急復旧対応を行った。被災してから上流部では、3 日、下流部では 6 日で応急復旧を終えた。



豪雨災害における応急復旧活動

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

有限会社 林土木(岐阜)

令和 5 年 6 月の岐阜県土岐市内の集中豪雨により、妻木川左岸落差工の下側で豪雨の為、空石積及び根継コンクリートの一部区間が大きく吸い出されて穴があいていた。岐阜県多治見土木事務所との災害協定により要請を受けた多治見建設業協会会員の林土木は、現場の洗掘箇所には袋詰め玉石を設置。空洞箇所には割碎石を詰め込み、大型土のうを設置して、法面を保護した。早期対応により吸出し箇所を最小限におさえ、道路までの浸食を防いだ。



株式会社 巖建設(京都)

巖建設は、2010年より八幡市53自治会に毎年 AED(自動体外除細動器)を贈呈しており、その結果53自治会全てに設置を行った。

また、八幡市社会福祉協議会をはじめ心身障害者施設などの社会福祉法人に対して寄付を行うなど、形を変えて継続的に社会貢献を行っている。

また、2018年に発生した大阪北部地震で、防災品の備蓄の必要性を痛感したことから、2021年より八幡市を通じて各地域の自治会に対し、非常食や非常用発電機などの防災備蓄品を贈呈し、地元の各小中学校・農業倉庫等に保管していただく防災支援活動を現在まで継続して行っている。



神戸三田 SDGs フェスタの開催

株式会社 河合塗研(兵庫)

河合塗研は、兵庫県内で SDGs への取組を推進する企業で発足した神戸三田 SDGs 推進実行委員会に発足から参画し、令和3年から持続可能な社会への取組を一企業として実践できるよう、「端材で作る作品コンテスト」の開催や、「SDGs フェスタ」の開催等、様々な活動を行っている。

今回の活動は、国連で定められている17の開発目標であるSDGs への取組を推進し秋を楽しみながら学ぶをコンセプトに、来場してブースを利用するだけで SDGs への取組につながるイベントとした。

イベントでは、プログラムの一つとして県産食材を使ったグルメブースを開設し、出店した18店舗に呼びかけ、売上金等から寄付を集め、兵庫県がふるさと納税制度を活用して展開する「子ども食堂支援」のプロジェクトに寄付し、兵庫県より感謝状を受けた。



株式会社深松組 北陸支店(富山)

深松組創業者ゆかりの地である朝日町笹川地区は上水道が整備されておらず、地区住民による簡易水道を使っているが、その簡易水道が設置から40年以上経過し、老朽化しており、更新が必要となった。

しかしながら、笹川地区だけでは更新費が賄えないことから、深松組北陸支店では小水力発電の売電収入を工事費にあてて地区の水道を守ることを提案、実現した。2021年から工事に着手し、地区の人と連携・協力して事業を進めている。



さっぽろふるさとの森づくり植樹・育樹活動

丸彦渡辺建設 株式会社(北海道)

丸彦渡辺建設は 2011 年に森づくり活動に取り組んでいくことを柱とした札幌市と連携協定を締結し、協定締結後 3 年間に渡り計約 1800 本の苗木を植樹した。それ以降、現在に至るまで毎年育樹活動を継続的に実施し、維持管理を行いながら森づくり活動を進めている。



継続的な道路の美化清掃活動

環境美化・保全活動

株式会社 櫻井千田(北海道)

櫻井千田では、平成20年4月から第一月曜日を除く毎週月曜日(雨天決行・祝日は次の日)の朝8:30から20分間、会社前の国道12号線のゴミ拾いを行っている。

近所の方から「櫻井さんきれいにして頂いてありがとう」と声を掛けてくださって大変励みになっている。高速道路を利用した観光客の皆様を気持ちよくお迎えするためにも、継続していく。

平成27年2月、一般財団法人日本そうじ協会より「街そうじ賞」を受賞した。



桜づつみ草刈活動～多年に亘っての草刈り作業～

環境美化・保全活動

有限会社 新江建設(岩手)

新江建設は、平成17年から毎年、お盆前に北上市の桜並木堤防の環境美化・保全ボランティア活動(堤防内の草刈り)を行っている。

活動は、地域住民の方々や花見・散歩・ジョギング等に訪れる方々が気持ちよく通って頂けるように毎年実施しており、今年度で19回目となる。作業延長は、600m(和賀川沿い市道等)で、両肩・法面等の除草・清掃等を行い、社員一丸となって継続している。



継続的な道路清掃活動

環境美化・保全活動

日広建設 株式会社(宮城)

日広建設は、平成29年3月から「宮城県スマイルロードサポーター」の認定を受け、道路清掃の環境美化活動を継続して行っており、令和5年11月に「令和5年度みやぎスマイルロード・リバープログラム功績者宮城県知事表彰」が贈呈された。

また、多くの市民が来庁の際に利用する角田市役所庁舎南側駐車場の美化活動にも取り組み、令和5年10月に「市政功労特別表彰」で角田市長から感謝状が贈呈された。

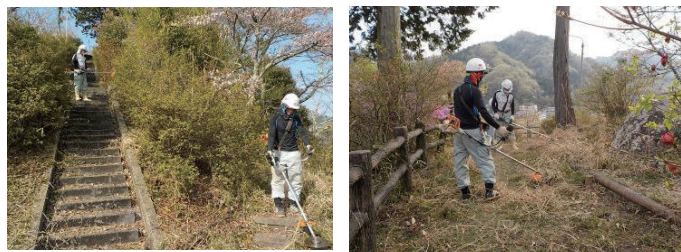


御伊勢山の維持管理作業

環境美化・保全活動

株式会社 桑原組(山梨)

桑原組は、本社所在地である大月市猿橋町藤崎区小田自治会と、大月市猿橋町藤崎地内にある藤崎区有林(通称 御伊勢山)の森林育成・維持・管理についての協力(ボランティア活動)についての協定を結び、平成15年から例年5月から6月頃に維持管理作業(除草等)を行っている。



青協建設 株式会社(岐阜)

青協建設は、関市青年団OB(関市推進青年協議会)を母体として地域の発展に貢献することを目的として設立された会社である。

また、ISO14001を始めとする環境に配慮した計画や目的を策定して運用管理にから努めてきた中、地域貢献活動として、2000年頃より月に一度の環境美化活動として、会社付近のゴミ拾いボランティア活動を行ってきた。

本活動は、多くの地域住民から感謝され、平成18年には、環境美化推進により、岐阜県知事及び中日本高速道路(株)から、それぞれ感謝状を受領した。



海岸清掃ボランティア活動

株式会社 関口組(富山)

関口組では、平成26年より、毎年 8 月に地元魚津市で開催される「たてもん祭り」や「じゃんこい魚津まつり海上花火大会」に合わせて、開催前に会場周辺の海岸に漂着した流木などを撤去及び清掃するとともに、周辺道路の美化清掃を行い、来場者に少しでも気持ちよく観覧してもらえるように美化清掃活動を実施している。



近藤建設 株式会社(富山)

近藤建設は、平成27年7月から毎月第1月曜日8時より実施している「掃除 DE あいさつ運動」という、「掃除」と「挨拶」を組み合わせた運動を、本社だけでなく各現場の周辺においても参加者全員が自ら主体性をもって実施している。

地域の方や通学中の学生との「挨拶」活動を通して、美しく住みやすい街づくりに貢献できる機会にもなっており、地域の方が美しい街で、健康的に暮らせること、持続可能な暮らしができることを目標に今後もこの、「掃除 DE あいさつ運動」を継続してまいります。

令和 5 年4月に入社した総務部の女性社員は、通学中に「掃除 DE あいさつ運動」を実際に見て、近藤建設に興味を持ったというエピソードもある。



福祉除雪活動

北土建設 株式会社(北海道)

北土建設は、2009 年度から地域協力員として「福祉除雪」を行っている。

「福祉除雪」は、札幌市社会福祉協議会が主催して高齢の方や障害のある方が通院や買い物などの外出時に支障となる、道路に面した出入口部分(間口)と玄関先までの通路部分(敷地内)の雪を地域協力員が除雪する事業である。

地域協力員は市内各地でご近所の方々、企業、団体など幅広い層で構成されている。

2023 年度は計 14 回出勤し、多い時には 26 回(2013 年、2014 年)に及んだ。地域協力員には札幌市社会福祉協議会より、活動費が支払われるが、弊社はその全額を同協議会を通じて「社会福祉法人北海道 いのちの電話」に寄付している。



みほた建設 株式会社(福島)

みほた建設では、地域社会に貢献するための活動として、令和2年から、毎年、地元の小学校において、夏季に児童が水泳授業や夏休み中のプール開放で使用するプールの清掃ボランティア活動を行っている。清掃には高圧洗浄機を使用し、できるだけ綺麗にして子供たちに気持ちよく泳いでもらうようにしている。

この清掃活動では、小学校の児童から感謝の手紙を毎年いただいております。社員にとってボランティア活動の大切さを実感する良い機会にもなっている。



株式会社 加藤建設(愛知)

加藤建設では、平成28年から地元のチャリティーイベント「にこにこママフェスタ」へ参加し、地元で根差した地域建設業として、子供たちに楽しみながらチャリティー募金をしてもらうための「カラーコーン輪投げ」や「カケヤでゴルフ」、「射的ゲーム」などの縁日ブースを出展している。

ブースで得た収益については、全て特定非営利活動法人にチャリティー募金として寄付し、東日本大震災などの自然災害に関係する子育て支援及び地元蟹江町の子育て支援として活用していただいている。



昭和建設 株式会社(山梨)

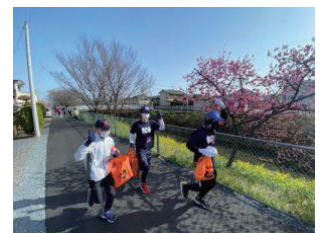
昭和建設では、塩山建設業協会の管内にある甲州市、山梨市内の小中学校のグラウンド平坦性の確保、混合土の補充、小石やゴミの除去、フェンス等の修繕など、校庭の整備を行っている。地域の将来を担う子供たちの、学校生活が安全で安心に行えるよう建設業者としてのスキルを活かしたボランティア活動を実施している。

また、作業状況を子供達に身近に見てもらうことにより、建設業への理解と関心を深めてもらう機会になればと、社会貢献活動の一環として子供の健やかな成長と学校生活の充実を願う活動を行っている。



古郡建設 株式会社(埼玉)

古郡建設では、2021年1月に SDGs 推進を宣言し、埼玉県内の SDGs に関する各制度等に登録している。同年6月よりジョギングを楽しみながらゴミ拾いをする「プロギング」を開始し、以降年3回プロギングイベントを開催している。Plogging とは、スウェーデン発の新しいフィットネスで、スウェーデン語の「拾う」という意味の“Plocka Upp(プロッカウップ)”と「ジョギング」「Jogging(ヨギング)」の2つの言葉を組み合わせた造語で、ゴミを拾う時にしゃがむことにより、通常のランニングの1.2倍のフィットネス効果があると言われており、近年注目を集めている活動である。



「走って健康」「拾ってエコ」「新しい交流」の一石三鳥で環境問題を解決に導くSDGsな取り組みで、子どもから高齢者まで気軽に参加できるように工夫を凝らしている。

プロギングという活動を通じ、地域建設業界におけるSDGsプロセスの先駆けとなり、様々なステークホルダーと連携することで、「SDGs」の解決の一助になると考えている。



石橋建設工業 株式会社(福島)

石橋建設工業は、2021年にSDGs宣言を行い、SDGsを企業行動に繋ぐべく様々な取り組みを行っている。

建設業を営む者として、建設工事の中で実行性のあることを実践すべきであると考え、県道の改良工事を「SDGs推進モデル工事」と位置づけて実践できることを行い、建設業全体でのSDGs推進に貢献した。主な実践内容として、

- ・寄附型自動販売機の現場事務所等へ設置による、犯罪被害者支援
- ・専門家による安全管理指導や、周辺地域のカーブミラー清掃など
- ・近隣保育園へ横断歩道旗を寄付、及び警察署員による横断学習
- ・近隣保育所の園児さんの重機試乗、ドローン運転見学、重機お絵描き
- ・SDGsの推進を図るため、現場周辺3箇所に啓蒙看板設置等、他にも多くのSDGs達成に向けた取組を進めている。



株式会社 グリーンテック(鹿児島)

グリーンテックでは、10年ほど前から、自社施工全現場付近で外来種駆除等環境保全活動を実施している。

また、世界自然遺産推進共同体に参加し、「希少種及び自然環境の保護」、「世界自然遺産に関する普及啓発、調査・研究等」、「希少種及び自然環境の活用を通じた地域貢献・地域振興」などの活動や、絶滅危惧種・アマミノクロウサギ交通事故防止キャンペーンでの街頭呼びかけ、アマミノクロウサギ交通事故防止勉強会等を実施し、環境保護、環境汚染の予防に対して積極的に活動している。

「地球環境を守るかごしま県民運動推進会議」、「あまみSDGsアワード」等で表彰された。



◆広報活動事例概要【第3条(協会・支部)】

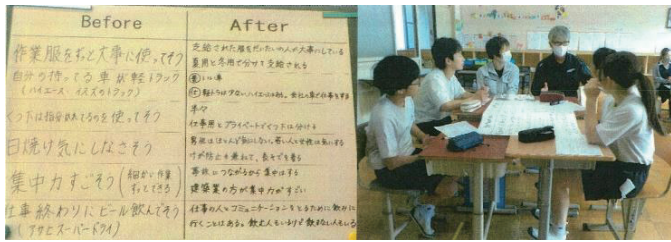
建設業イメージアップへの出前講座の実施

建設業ふれあい活動

一般社団法人 郡上建設業協会 青年会(岐阜)

郡上建設業協会青年部では、建設業の未来の担い手確保のため、郡上市内の小中学生を対象に令和元年度から「はたらく車乗車体験」を開催した。建設現場で働く車を体験してもらい地域の未来を担う子供たちに建設業の仕事を知ると同時に興味をもってもらえることを期待し今後も継続していく。

また、令和5年度には、各中学校に協力していただき、「中学校グループワーク」を企画。建設業と学生の交流を通し、グループワーク前に学生が思っている建設業界への思い(不安なこと・疑問点等)の聞きとりをするとともに、悪いイメージを解消し、さらに建設業の魅力伝える出前講座を行った。



除雪 PR ポスターの作成・配布

広報ツール、アイテムの活用による広報活動

一般社団法人 新潟県建設業協会 十日町支部(新潟)

道路の除雪作業は、地域での安全で快適な生活を維持するため、また地域経済の発展を支える重要な役割を担っている。しかしながら、近年、除雪オペレータの高齢化に加え、新たな担い手不足も進み、将来的な除雪体制の確保に懸念が生じている。この問題解決に向け、新潟県建設業協会十日町支部では、新潟県十日町地域振興局、十日町市、津南町と協同で、冬期道路交通の確保や担い手確保の取組として、「道があるから、故郷(ふるさと)がある。」をキャッチコピーに、毎年 PR ポスターを作成し、十日町市・津南町全ての小・中学校へ配布している。

学生に直接アピールすることで、建設産業に注目してもらえききっかけとなっており、同支部では、今後も地域建設業の組織力を生かして、こうした活動に積極的に取り組むことで、建設業に対する関心を高め、入職促進に貢献する取組を実施していく。



動画【DOBOKU のススメ】の制作

SNS、映像、メディアによる広報活動

山形県建設業協会 最上支部(山形)

山形県建設業協会最上支部では、建設業へのイメージを変革するため、建設業の今を表現した動画【DOBOKU のススメ】を制作した。

幅広い層に届いて欲しい、特に未来ある青年たちに届いて欲しいとの思いより、山形県内で誰もが知るお茶の間の人気者タレント・ミッチーチェン氏に出演いただき、令和3年9月の打合せから令和5年10月の配信まで2年がかりで制作した。

配信から4ヶ月で12,000回再生と多くの皆様に視聴いただいた。

この動画を通じて、一人でも建設業に興味関心を持ってくれる人が増えていただきたい。



マンガ冊子「建設の仕事」の発刊

広報ツール、アイテムの活用による広報活動

岡山県建設業協会 岡山西支部(岡山)

岡山県建設業協会岡山西支部では、マンガ冊子『造る、守る、残す 建設の仕事』を刊行した。

本冊子は、岡山県内の工業高校、特に建築・土木系学科に所属する高校生を対象に配布し、建設業の仕事の種類や内容、そしてそこで働く人々の姿を通して、「やりがい」を感じていただきたいとの思いから企画したものである。高校生の皆さんが気軽に読めるようマンガにしておき、建設業への入職者が減少するなか、本書をきっかけに、一人でも多くの学生の方が建設の仕事に関心をもってもらい、地元岡山で建設業に携わっていただきたいと考えている。



地域の小学生を招いた現場見学会

建設業ふれあい活動

株式会社 西村組(北海道)

西村組では2021年より、施工している工事現場の近隣小学校の生徒を招いて、現場見学会を行っている。地元で行われている工事現場を少しでも身近に感じてもらい、建設業に関連する重機や機械に直接触れて、建設業の魅力を多くの小学生に知ってもらう事を目的として毎年開催している。

令和5年度は、7つの小学校の小学生を各地で施工している現場へ招待し、工事の目的や当該工事が地域へどのように関わっているかなどをわかりやすく解説し、地域に役立つ仕事である事を知ってもらう機会を創出している。また、建設機械やドローンの操作等の体験型のイベントも併せて実施することによって建設業の楽しさをより実感できるよう工夫した取り組みを実施している。



地域小学校での建設機械乗車体験

建設業ふれあい活動

金山土建 株式会社(山梨)

小学校の授業「はたらく自動車」の一環として、毎年小学校で建設機械の乗車体験を実施している。例年、建設機械はバックホウ、ホイールローダーを使用している。その際、参加児童全員にすべての建設機械に乗車できるよう配慮し、それぞれの機械の特徴や機能を体験してもらっている。また、体験後には質問等を受けて、重機の機能や建設業の仕事内容などの理解を深めてもらえるように努め、建設業への興味を持ってもらえるよう、この活動を継続して実施していく。



市内中学校での出張職場体験学習会の開催

建設業ふれあい活動

株式会社 小野中村(福島)

小野中村では、令和元年より市内の中学校へ出向き、職場体験学習会を開催している。

建設業に対する理解を深めてもらい、実際に測量機器を使用して測定を実施したほか、工事現場で着用する安全ベストや落下防止用ハーネスなどを身につけてもらうことで、リアルな建設現場の体験を実施した。



「人権と平和の花・カンナ」の植栽を通じた
地域建設業からダイバーシティへの取り組み

建設業ふれあい活動

高木建設 株式会社(長野)

高木建設では、2020年から「人権と平和の花・カンナ」の植栽活動を始め、2023年からは弊社のみならず、地元企業や小学校、保育園にまで広がり、地域の「人権と平和」を考える機会に繋がっている。

この活動がきっかけとなり、通信制高校とは建設現場見学会、インターンシップの受入れを実施し、建設業の業務内容を知ってもらっている。社員や協力会社の職人と話をする機会を設けることで、建設業の新しい技術や魅力を伝えている。

この「人権と平和の花」の活動が更に広がり、この地域が真っ赤なカンナに埋め尽くされる日を夢見ている。

また、この活動を通して、建設業を知ってもらい、魅力を伝える機会を増やしていく。



地域の子どもたちに
建設業について知ってもらう機会を提供

建設業ふれあい活動

株式会社 齊藤組(富山)

齊藤組では中学生の体験学習である「14歳の挑戦」を平成21年から実施しており、近年では高校生や大学生による地域の課題を対象にしたフィールドスタディを行うなど様々な活動を実施している。

中学生を対象とした「14歳の挑戦」では、工事看板の作成やドローンによる測量体験を実施。5日間の職業体験を通し、規範意識や社会性を高めることはもちろん、建設業について知ってもらう機会となった。また、高校生と行ったフィールドスタディでは、実際に現場を見学してもらい、建設業の抱える人材不足等の課題について一緒に考え、意見交換会を行った。

大学生との地域づくり学習では、大学生の企業訪問やヒアリングなどを通し課題を発見し、SDGsの観点を踏まえ「もっとこうしたら事業所や地域が良くなる」という意見交換を行った。



中・高校生への建設業の魅力を伝える出前授業
「建設ゼミナール」の実施

建設業ふれあい活動

住吉工業 株式会社(山口)

住吉工業では、山口県建設業協会や山口県土木建築部を含む産官学連携の「山口県地域を支える担い手協議会」での人材確保対策事業の一環として行っている、中高校生向けに建設業の魅力を伝える出前授業「建設ゼミナール」において、令和5年度までの過去10年間にわたり23回と積極的に講師を務めた。

【過去3年間の実績】

令和3年:6校 153人

令和4年:9校 274人

令和5年:8校 301人

3か年計:23校 728人



牛若～日本のインフラを守る技能者たちの挑戦～

SNS、映像、メディアによる広報活動

ヤマダインフラテクノス 株式会社(愛知)

ヤマダインフラテクノスでは、「ウシワカ製作委員会」の会長として、「ウシワカ・プロジェクト」に取り組んでいる。本取組は、社会インフラが現場で働く多くの技能者たちの手で支えられていることを、橋梁を例にとりて発信し、一人でも多くの方に建設行政への理解・協力を得るとともに、インフラ保全の重要性、やりがい等若年層へ広くアピールすることで建設業界の持続的発展に寄与することを目的として立ち上げた活動で、「ウシワカ」とは、橋の上で縦横無尽に活躍する技能者の姿を牛若丸に見立てて命名している。具体的には、現場の最前線で働く技能者にスポットを当てた2分間のミニ番組を作成し、放送地域は限られるが地上波で放送し、その後はホームページを通じて全国どこでも視聴可能としている。

現在ホームページにて全36話が常時視聴可能となっている。これらの番組を通じて、一般の方々が毎日当たり前のように橋を利用できるありがたさを実感いただき、保全工事の必要性等について理解をいただき、これからの未来の日本を支える若年層の方々が、建設業界に少しでも魅力とやりがいを感じていただきたい。



